

基本評価シート

様式

北海道 浦河様似区域

(北海道日高振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）		
	令和5年度（2023年度）エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務（浦河 様似区域）		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	日高振興局保健環境部環境 生活課自然環境係
担当者名	久郷 真治	担当者連絡先	0146-22-9254
捕獲実施事業者	（認定を受けている・ 受けていない）	予算額（※2）	198,199,000円
		予算額の内捕獲に 要する経費（※3）	98,729,000円

- （※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。
 （※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。
 （※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定
 管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和5年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
75頭	48頭	64%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
72万頭※ （個体数指数：東部137、北部 121、中部107、南部353）	東部：R8末に個体数指数50以下（H23を100） 北部・中部：R13末に個体数指数50以下（H23を100） 南部：R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
34,396頭（R4）	58,581頭（R4）	52,012頭（R4）

※令和4年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、
谷）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3~15万頭の間と推定

鳥獣関係統計より

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>第二種特定計画である「北海道エゾシカ管理計画」において、指定管理鳥獣捕獲等事業について「エゾシカによる生物多様性への影響や被害等が深刻又は懸念される地域においては、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を必要に応じて計画的に実施する」としている。</p> <p>これに基づき、鳥獣保護区や自然公園など、市町村等による捕獲が困難な地域でエゾシカの捕獲を実施する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和5年12月5日～令和6年3月15日(※委託期間)
実施区域	<p>様似郡様似町大泉地区、旭地区</p> <p>様似町においては、令和3年度(2021年度)、シカによる農林業被害額は約1200万円で、日高管内全体における被害額4億4,800万円の約3となっているが、北海道環境生活部が作成している「エゾシカ狩猟情報マップ」によると、令和3年度(2021年度)において、夏～秋のシカの密度指標に当たるライトセンサス観察頭数(頭/10km)は、「中密度」とされる「50100」であり、また、初冬～越冬期のシカの密度指標に当たるSPUE(狩猟努力量当たりの目撃数頭人日)は「5.9」となっており個体数調整のためにシカの捕獲を推進する必要がある。</p> <p>当地区については、日高山脈の西南部に位置し、低標高にも関わらず植生は固有種などが多く保全の必要な地域であるが、越冬地調査でエゾシカはアポイ岳の低標高区域(380m以下)を頻繁に利用している事が確認された。それより上部は針葉樹が十分生育しないため積雪深に関らず利用が困難であると考えられる。特に積雪期には、陽当たりが良く積雪が非常に少なくなる南斜面にエゾシカが集中し、そのような場所では、下層植生の衰退が著しく進行している。</p> <p>※1:実施区域の特徴も記入</p> <p>※2:事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・(地独)北海道立総合研究機構:捕獲手法や分析等の助言など効果的な事業実施に向けた連携を図る。 ・地元市町村等:地域住民への連絡周知や地元関係機関との調整、捕獲事業の情報共有を図る。 ・日高振興局森林室:道有林内で実施する際の入林等手続き及び捕獲事業の情報共有を図る。
事業の捕獲目標	<p>(64%達成)</p> <p>= (48 実績値) / (75 目標値)</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟</p> <p><input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> <p>【わな猟】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input type="checkbox"/> 囲いわな</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p> <p>※1:各種猟法の定義は〇ページ参照、※2:複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input type="checkbox"/> 個体の身体の一部(耳、尾など)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 写真(証拠写真は、捕獲者・捕獲個体・捕獲情報を記載したホワイトボード等を撮影することとし、またGPS機能付きのカメラ(スマートフォンを含む)で撮影し、データも併せて添付する。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他(捕獲現場にて立会)</p> <p>※複数チェック可。</p>

捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 (内容：こまめに見回りを行い、錯誤捕獲があった場合には速やかに対応するようにした。) <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	<p>鉛製銃弾について</p> <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	<p>捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制、緊急連絡体制図、周辺住民等に対する周知体制、及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。</p> <p>受託者の内部にあっては、上記で定めた安全管理体制に基づき、従事者全員がそれぞれの役割を把握できるよう安全管理体制を構築させた。</p> <p>捕獲事業の実施にあたっては、予め捕獲場所、実施期間、及び捕獲手法について市町村等関係機関と調整会議を開催し、地域住民等にチラシを配布するなどにより周知を図らせた。</p> <p>捕獲事業の実施期間は、実施区域へ立ち入る際に腕章を着用し、捕獲事業者であることを明確にした上で、必要に応じ関係者以外の立ち入りを規制した。</p> <p>また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。特に、本業務は冬期間に実施されることから、事前に天候等の情報を入手し、移動時も含めて事故等の無いよう十分な装備と計画のもと実施させた。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> 捕獲従事者数：15人 (内訳) 正規雇用者：15人、期間雇用者：0人 日当制：15人

3. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：目標頭数を達成することができなかった。</p> <p>改善点：可猟区内での実施であったため、スレジカの増加が目立ったほか、積雪が少なかったことから誘因がうまくいかなかったことも考えられる。</p> <p>また、生息数を過大評価していたことが考えられるため、事前調査を念入りに刷る必要があった。</p>
【実施期間】	<p>評価：越冬地での捕獲による個体数調整を行うものであること、餌による誘引が容易な時期であることから、実施時期は適切であった。</p>

	<p>また、捕獲開始前の餌による誘引期間を十分に確保することが重要である。</p> <p>改善点：積雪量が少なかったこともあり、捕獲数が伸びなかったため、事業開始時期を早めることで更に捕獲頭数を増やすことが見込める。</p> <p>もしくは狩猟期間外の夏場での捕獲を考えても良かった。</p>
【実施区域】	<p>評価：付近に設置した自動撮影カメラによるシカの撮影状況、餌による誘引状況や捕獲実績から、冬期間の当該地区でのエゾシカ出没頻度が高いことが示され、捕獲対象区域とする必要性は高かった。</p> <p>改善点：旭地区は可猟区が含まれていたため、昼間の一般狩猟者の銃猟により、警戒心が増しスレジカの割合が増えてしまった。</p> <p>大泉地区は一部可猟区を含むが、一般狩猟者の利用頻度は低くスレジカの割合は多くなかったが、もともとの生息数が低い傾向にあるほか、積雪量が多く車両で移動できる捕獲範囲が狭かった。</p> <p>一般狩猟がない地域での実施が望ましい。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：くくりわなは大型囲いわな等に比べ、作業音や設置場所に侵入する人数や滞在時間が最少であるため、周辺の捕獲対象個体に警戒心を与えにくいという利点がある。</p> <p>また、シカの行動圏やシカ道に直接わな具を設置できること、スレジカに対しても、落ち葉・土・雪・その他自然物でカモフラージュできることから、一定の成果を得ることができた。</p> <p>改善点捕獲個体の回収を考慮すると、運搬車両が通行できる作業道が付近に存在することが必須となるが、事業実施地は車両が入れない場所が多く、わなを仕掛けられる場所に制限があった。</p> <p>また、傾斜地にくくりわなを設置すると、拘束を振り解こうとするシカの行動により、仮に斜面下方にワイヤーが伸びきった場合にはシカが宙づりのような状態になる。これにより、ストレスと体力消耗により稀に死亡にするケースもあるため、極力平地に設置する必要がある。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：一般競争入札により受託者を選定し、事業者の体制は十分であった。</p> <p>改善点：特になし</p>
【個体処分】	<p>評価：事業者のペットフード事業部で内蔵以外の部位は有効活用が可能であり、ペットフードとして有効活用された。内臓は、廃棄物処理業者が一般廃棄物処分として処理。</p> <p>改善点：特になし。</p>
【環境配慮】	<p>評価：付近では希少野生鳥獣の生息情報があるため、銃器を使用しない捕獲手法を前提にして捕獲作業を実施した。</p> <p>また、実施区域が可猟区出あるため、一般狩猟者とのトラブルが起きないように活動時間等に配慮した。</p> <p>改善点：当該区域では、同様の配慮を継続する必要がある。</p>

【安全管理】	評価：受託者が作成した「捕獲作業計画」において地元猟友会の意見を踏まえたほか安全管理体制を適切に記載し、その内容を適切に実行した結果、事故等のトラブル及び苦情の発生はなかった。
	改善点：今後とも、現地の状況や捕獲手法に適応した安全管理体制を構築して事業を実施する必要がある。

3. その他の事項に関する評価及び改善点

事業実施区域の想定越冬数 300 頭のデータ及びシカによる食痕等から捕獲頭数を見たところ、捕獲区域のみ見た場合においても想定越冬数に対して誘因餌に引きつける事のできた頭数は少ない事が考えられる。

捕獲開始から一週間程度経過した時点で、ワナ設置エリアにシカが寄り付かなかった。理由として本事業エリアを生息圏とする生息個体の危険回避経験値（スレジカ度合い）に対して、本事業開始時の想定が、実態よりも低かった事が考える。

捕獲期間後半では、捕獲対象を山間部側の作業可能エリアが行動圏となっている個体に定め、林道周辺の低地帯での捕獲から、林道から離れた高地帯の山林深部での捕獲手法に移行し、低地帯の林道周辺域では発見しにくくなっていた新しい足跡が多く確認され、捕獲精度の高い設置が可能になった。

4. 全体評価

目撃数、捕獲数及び植生被害に起因する地形侵食の度合い等から実施区域が想定していた生息数より少ない生息数であったほか、一部区域が可猟区であることから銃猟による捕獲圧や普段から車両や人の気配に強く警戒しているため危機回避能力に特化したスマートディア化が顕著であったので、事業目標頭数が達成できなかった。

しかし、可猟区での一般狩猟者は銃猟での狩猟が基本であるため、日中は一般狩猟者による捕獲、夜間は当事業による捕獲で棲み分けができていたため、全体としては効果的な捕獲ができていたとも考えられる。

鳥獣保護区等の一般狩猟が不可能な区域での実施または可猟区での場合は狩猟期外での夏場での実施により捕獲頭数の増加が見込まれる。

今後捕獲事業を進めていく上では、事業の成果や反省点等の情報を蓄積していくことが重要である。

また、捕獲の成果が地域における個体数調整にどのように寄与しているか、今後、評価方法も含めて検討していく必要がある。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

本事業で集中的に捕獲実施したことにより、生物多様性への影響の軽減、周辺地域の農林業被害及び市街地への出没を軽減させるほか、エゾシカの逃避地を作らせないことによる地域全体の捕獲効率向上を期待している。

今後は、例年行っている自動撮影カメラによる生息状況調査等の結果を踏まえて、さらに効果的なエゾシカ対策の推進を検討していく予定。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ()	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

項目	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※¹： _____ 人日

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 人日

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	_____ 人日	_____ 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数^{※1}： _____ 153 人日

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 6 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 153 人日

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	3,020 基日	2,250 基日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	_____ 頭	_____ 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	_____ 頭	_____ 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	_____ 頭	_____ 人日	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	_____ 頭	_____ 人日	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	_____ 頭	_____ 人日	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	_____ 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	48 頭	76 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	33／48 0.69	44／76 0.58	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	5／48 0.10	30／76 0.39	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	48 頭	3,020 基日	0.016 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2:CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： _____ 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： _____ 48 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に捕獲個体記録票を作成し、生体で捕獲した個体については、捕獲頭数がわかるように捕獲時の全景に、捕獲情報を記載したホワイトボード等を含めて撮影した写真を添付することとしている。

捕獲した個体の処理については、発注段階から受入予定先を明記し、受託者が有効活用事業者と調整しながら捕獲事業を実施することとしており、納入結果についても報告させている。